

## H19 年度第 3 回技術開発推進専門部会 / #6 EDP 事前打ち合わせ 議事録 (案)

日時：2007 年 12 月 4 日 (火) PM14:00~18:00

場所：海洋研究開発機構 東京事務所 大会議室

出席者 (敬称略)

専門部会長：木下正高 (海洋研究開発機構)

専門部会委員：伊藤高敏 (東北大学) 池上 徹 (シュルンベルジェ株式会社) ※遠藤委員代理

唐澤廣和 (産業技術総合研究所) 許 正憲 (海洋研究開発機構)

佐久間澄夫 (地熱エンジニアリング株式会社) 佐野 修 (東京大学地震研究所)

手塚和彦 (石油資源開発株式会社) 福井 学 (北海道大学)

松岡 洋 (日本海洋掘削株式会社) 渡辺喜保 (東海大学)

E D P 委員：浅沼宏 (東北大学) 中田晴弥 (地熱技術開発株式会社)

宮入 誠 (石油資源開発株式会社)

科学計測専門部会長：斎藤実篤 (海洋研究開発機構)

孔内計測共同 WG 長：中村恭之 (東京大学海洋研究所)

執行部会担当者：山田泰広 (京都大学)

C D E X: 伊藤久男

事務局：中山敦志 加賀谷一茶 吉岡由紀

欠席者 (敬称略)

専門部会委員：荒戸裕之 (帝国石油株式会社) 遠藤立樹 (シュルンベルジェ株式会社)

篠原雅尚 (東京大学地震研究所) \* 田村満夫 (ジャパン石油開発株式会社)

E D P 委員：鈴木英之 (東京大学) 武村貢 (石油資源開発株式会社)

福原政文 (Schlumberger Moscow Research)

### 議事次第

前回(#1\_070704)議事録\_事務局案 [事務局]

【資料 3-1】

#### 【報告事項】

1. 孔内計測 WG の活動中間報告 (中村恭之)

【資料 3-2(1), (2), (3)】

- ・スクールの開催
- ・海洋底調査の基本 執筆
- ・JFES との協力

#### 【審議事項】

2. 次期部会長および専門部会委員メンバーに関して

【資料 3-3(1)】

3. EDP 事前打ち合わせ

【資料 3-4】

- ・Roadmap 担当確認
- ・STP からの要望について
- ・EDP 委員の減数について

【資料 3-5】

【資料 3-3(2)】

4. 話題提供 (時間があれば)

- ・ NanTroSEIZE の近況 (木下)
- ・ ちきゅうにかかわる技術開発状況 (CDEX)
- ・ 応力測定 (伊藤高敏)

### 配布資料

資料 3-1 H19 #2\_2070704 議事録 (事務局案) 資料

資料 3-2 孔内計測 WG 活動中間報告

資料 3-3(1) 専門部会ローテーション現状

資料 3-3(2) EDP ローテーション案

資料 3-4 #6 EDP Agenda / Initial Roster

資料 3-5 EDP Technology Roadmap ver. 2.0

## 議事録（案）

- ・事務局により資料の確認が行われた。
- ・部会委員、EDP委員の紹介が行われた。
- ・前回の議事録に修正がある場合は、会議中もしくは会議後にメールにて指摘する。

### 【報告事項】

#### 1. 孔内計測 WG の活動中間報告（中村委員） 【資料 3-2(1), (2), (3)】

中村委員より以下の報告が行われた。

##### WG 活動報告について

- ・今年度はまだ WG を開催していない。
- ・会則の変更を 7 月に行い、WG タスクに新たに泥水検層を加えた。長期孔内計測については、ニーズを確認しつつ必要に応じて議論する。
- ・メンバーに泥水検層を専門としている方を新たに加えた。
- ・CDEX は、オブザーバーとして随時参加する。

##### 「海洋底調査の基本」について

- ・本書は、筑波大の安間氏が中心となり、各分野の執筆者から原稿を取りまとめている。当 WG は孔内計測を担当している。本日配布の資料は、その部分を抜粋したもの。
- ・地質学会が発行している「地質基準」の海版という位置づけ。
- ・本書は、これから海洋調査を始める際のガイドラインとして、大学学部生および院生を対象にしている。

##### J-DESC コアスクール「孔内計測コース」開催について

- ・具体的なスケジュールは確定していないが、年度内開催に向けて調整を行いたい。

##### JFES との協力について

- ・JFES（日本地層評価学会）が開催するシンポジウムへ、WG より公演者の派遣もしくは紹介を行う予定。

## 【審議事項】

### 2. 次期部会長および専門部会委員メンバーに関して 【資料 3-3(1)】

事務局より EDP 委員および部会委員のローテーション案の報告が行われた。

- ・ 本ローテーション案は、SASEC パネルから提言のあった SAS 委員削減について、日米 PMO 間で定めた削減スケジュールに沿って作成したものである。体的には日米からは代表を 7 名から 5 名に、その他は今まで通り。
- ・ 現状では、EDP 委員の自然なローテーション OFF で削減が実現する。
- ・ 部会委員は今年度から 2 年任期となった。(再任は可能)

木下部会長より、次期部会長候補について説明がなされ、部会への参加については了承が得られたこと、部会長就任については今後検討するとの報告がなされた。

### 3. EDP 事前打ち合わせ

【資料 3-4】

STP パネルからの以下のパネル会議運営に関わる要望について、伊藤オブザーバーより説明がなされた。

- ・ 会議中における委員のメール、ネット利用の自粛。
- ・ 以前から STP と EDP を統合する話があったが、STP は統合について反対している。
- ・ 両パネル合同で議論の必要がある事項については、パネルを同時開催とし、必要に応じて合同セッションを持つ等の提案が出ている。

中田 EDP 委員および伊藤オブザーバーより前回 EDP 会議の報告がなされた。

- ・ 前回は Technology Roadmap の見直しが行なわれ、現時点でのドキュメントとしての完成とその優先順位付け (トップ 10)、及び 4 つの Technology Development Proposal のレビューがおこなわれた。
- ・ Technology Roadmap カテゴリー別に、Science Goal との整合性、コストの妥当性、リスクの確認、及び技術的・時間的・コスト的に達成可能な技術開発なのかについて全て見直された。
- ・ 温度予測の高精度化と坑壁安定性の向上について、Technology Roadmap の中に記載がないとの指摘があり、検討の結果、盛り込むこととなった。
- ・ 現状の ED Proposal Submission Process は、プロポーザルが要求する予算額によってプロセスが変わってくる。次回会議はこの議論が行なわれると思う。  
(前回 EDP 会議の詳細については、本議事録末の添付資料を参照)

Technology Roadmap 等について、以下のコメントが関係者からなされた。

- ・ 次回の ED Proposal 募集締切 (4 月) に向け、1 月の EDP での議論を受けて、J-DESC として国内からの提案を Roadmap に沿って戦略的に促進していきたい。
- ・ ストレス計測等の個別要素の強い技術開発より、他に応用が利く開発の方が受けはよく、プロジェクトのランク入りも多い。ただし、坑壁安定性向上の議論が進めば、認識は変わると思う。

### 4. 話題提供

NanTroSEIZE Exp.314 の航海報告を、同航海のコチーフである木下部会長が行った。

- ・ 海底下 500m 近辺で LWD がスタックし、200m 程上部のドリルパイプの付け根から先が脱落してしまった。(ドリルのスタック状況の映像が紹介された)
- ・ オーバーショットツールにより改修を 5 日間試みたが最終的に改修を断念した。
- ・ この他、LWD がスタックした付近の地質構造の説明、船内生活の紹介等が行なわれた。

伊藤オブザーバーより、現在検討中の応力測定に関するサードパーティーツールのプロポーザルについて、紹介が行なわれた。その他、NanTroSEIZE では応力測定、孔壁安定が重要であること、本プロポーザルが今度の 4 月までに提出されることを期待するという意見が寄せられた。

許委員より、CDEX が現在開発中の長期孔内観測システムのテレメトリー部分について説明がなされ、FY07 年度での開発成果と今後の予定について報告があった。

(皆様にご確認いただいた後、正式版 PDF ではここから前回 EDP 東京会議の報告書が挿入されます。現状では別添した PDF ファイルをご参照くださいませ。ご不便をおかけしまして申し訳ございません。)

# 統合国際深海掘削計画 (IODP) 会議報告書

提出年月日： 平成 19 年 0 8 月 1 7 日

氏名： EDP member (宮入、中田、武村、手塚、田村、渡辺[代理]、福原、)

会議名	第 5 回 EDP Meeting
期間 (移動を含む)	平成 19 年 0 7 月 0 9 日 ~ 1 1 日
用務地 (国・都市)	日本・東京
目的	<p>主要議題</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 . Technology Roadmap のレビュー (主に Science Goal との整合性、コスト、リスク、及び達成可能性について) 及び優先順位付け</li><li>2 . Technology Development Proposal のレビュー、クラス分け (ランキング)、及び提案者への技術コメント</li></ol>
<p><u>会議内容及び報告事項</u></p> <p>第 5 回 EDP 会議は東京の Japex オフィス会議室で開催された。</p> <p>前回ニューヨークで見直された Technology Roadmap の (ライブドキュメントなので) 現時点でのドキュメントとしての完成とその優先順位付け、及び 4 つの Technology Development Proposal のレビューがおこなわれた。</p> <p><u>Technology Roadmap</u> 前回同様、以下に示す 3 つのカテゴリ別にグループ分けをして、それぞれのグループ内で Science Goal との整合性、コストの妥当性、リスクの確認、及び技術的・時間的・コスト的に達成可能な技術開発なのか、前回の 82 項目すべてについて見直された。カテゴリ別の優先順位を (投票者の知識度で重み付けした) ランク付け形式で各メンバーが投票し、トップ 10 (A からは 1 1) が選ばれた。ここで、カテゴリ間の整合性の調整は行っていない。Roadmap ドキュメントとランキングは新バージョンとして公表される予定。</p> <p>Technology Roadmap カテゴリ： A: Borehole infrastructure B: Drilling vessel/infrastructure C: Sampling, Logging, and Coring</p> <p>この他、温度予測の高精度化と坑壁安定性の向上が、Science Goal 達成に重要であるにもかかわらず、Technology Roadmap の中に記載がないとの指摘があり、検討の結果、「Accurate estimates of downhole temperatures」がカテゴリ-A の項目の一つとして入り、「better hole stability」の記載がカテゴリ-B の項目の一つである Protocol for Proper Mud Design の Requirements の中に盛り込まれた。</p> <p><u>Technology Development Proposal</u> IODP-MI が受けとった以下に示す 4 つの技術開発提案書についてレビューが行われた。これらの技術提案は MI がすでに技術タスクフォース (メンバーはすべて US から) として検討し、提案者に再検討項目・質問等を投げかけていて、あるものはその回答をアップデートした提案書となっていた。EDP はこれらの提案書に「Watchdog」を指名し、各提案について EDP としての検討を行い、最終的に EDP の総意として MI にコメント及びクラス (5 段階評価によるランキング) を提出した。 提案技術の妥当性の裏づけについてはかなり突っ込んだ議論がされ、それらはクラス分けに大きく影響を与えた。クラス分けの評価基準を書き示す</p> <p>クラス分け評価基準 5 stars: Extraordinary proposal. (ED impacts multiple aspects of the ISP and/or Tech Roadmap. Exceptional cost/benefit ratio. Very high probability of success.)</p>	

- 4 stars: Very good  
(Impacts the ISP and/or Tech Roadmap., Good cost/benefit. High probability of success.)
- 3 stars: Good  
(Impacts the ISP and/or Tech Roadmap. Acceptable cost/benefit. Acceptable probability of success.)
- 2 stars: Could be strengthened  
(Can impact ISP but contains deficiencies in organization, and/or Poor cost/benefit, and/or Poor probability of success.)
- 1 star: Not Acceptable  
(If Not impacts the ISP or contains deficiencies in organization, and/or Poor cost/benefit, and/or Poor probability of success.)

技術開発提案書：

1. Wellhead Interconnection System (WHIC)  
Watchdogs: Sears(lead), Nakata, Person, Ye
2. Sediment Cork (SCork)  
Watchdogs: Takemura(lead), Von Herzen, Holloway, Tamura
3. Decoupled Penetrometer Delivery System  
Watchdogs: Thorogood(lead), Alberty, Ask, Ussler
4. SCIMPI  
Watchdogs: Fukuhara(lead), Tezuka, Flemings

その他

- 前回の EDP Meeting #4 Minutes が承認された。
- 今回の EDP メンバーの出席者は代理も含め、日本：7名、米国：5名、欧州：3名、中国：1名。
- SPC レポートのセッションでは、予算が厳しく、今後重要な変更（non-IODP のオペレーションやスケジュール延期を含む）がある可能性が示された。また SASEC ワーキンググループが検討したコスト削減策シナリの一つとして、ED 資金の減少（若しくは無くなる）の可能性が示唆され、これに関して、EDP のメンバー縮小が提案されたという報告があった。具体的には日米からは代表を7名から5名に、その他は今まで通り。STP と EDP の統合、年間2回のパネル会議も少なくするという議論もあるらしい。
- SSEP Liaison の重要性が認識・強調され、EDP メンバーから代表者が会議に参加し EDP にフィードバックする。
- IODP-MI の提案する Coring Study を EDP がサポートする。
- 宮入氏が vice-chair として正式に紹介された。
- 手塚氏は今回で任期満了。次回で US メンバー総てが6回目。議長の Fleming は US 側委員に対し今会議後にボランティアで2名ローテートオフしてくれるよう呼びかけていた。日米のメンバー数削減は決定事項と捉え、日本側としてどのような専門的知識を持った5名を残すべきか検討が必要。
- 次回 # 6 のミーティングは仏国のパリ又はニースで2008年1月9-11日の予定。
- 次々回 # 7 は米国のワシントン D.C. 又は Monterey で2008年7月14-16日として提案された。

備考	
----	--

事務局又はJ-DESCへのご要望・コメント等